

プロジェクト名	ドイツまたはヨーロッパ近現代史に関するオンラインクイズの作成
タイプとレベル	「リーディングと語彙」 B1、 「ライティングと文法」 A2
期間	準備期間として毎回の授業の後半 45 分を 3 回+発表会（クイズの紹介）
対象者	週 2 回 1 年間以上ドイツ語を学習した経験のある大学 2 年生以上の学生
計画案 <small>（課題、目的、学習対象、 利用可能なツール、技術的 な前提、進行プラン例）</small>	<p>課題 : 2~3 人のグループで、自分たちの調べた情報を基に、マルチプルチョイス形式による 3~5 題分のドイツまたはヨーロッパの現代史に関するドイツ語のクイズと解答・解説を HotPotatoes で作らせ、出題させる。なお、それぞれの問題に簡単な解説文を付けさせる。</p> <p>目的 : 1) 簡単なドイツ語のテキストを読んでその内容を理解する (B1 レベルの reading)、2) 理解した内容を簡単なキーワードを使ってドイツ語でまとめる (A2 レベルの writing)、3) 自分たちがドイツ語を使って理解した内容を、それをまだ知らない第三者にクイズ形式で伝える方法を考える、4) 新出語彙の発音を自分で調べ、発音できるようにする。</p> <p>利用可能なツール :</p> <p>学生 : Kinderweltreise, Länder-Lexikon, reiselexiko.de, Wikipedia, Glosbe・Reverso Dictionary などのオンライン辞書各種, ドイツ語読み上げサイト、HotPotatoes など。</p> <p>教員 : HotPotatoes</p> <p>技術的な前提 CALL 教室等が使えれば望ましいが、最低限、教員用 PC が 1 台ネットに接続でき、その画面を提示できれば良い。</p> <p>プロジェクト進行プラン</p> <p>① 準備 : 教員は、先行する授業の中で、ドイツの地誌や近現代史に関して扱ったり、たとえばドイツ映画や DVD (例 : 『グッバイ・レーニン(2003)』、『ベルンの奇蹟(2005)』、『善き人のためのソナタ(2006)』、『コッホ先生と僕らの革命(2011)』、『帰ってきたヒトラー(2015)』、『アイヒマンを追え! ナチスがもっとも畏れた男(2015)』、『僕たちは希望という名の列車に乗った(2018)』) 等を紹介したりして、ドイツの文化・社会に関するテーマを取り上げる。HotPotatoes はあらかじめ、指示文を日本語にする等のカスタマイズを行うとともにそれを使ったオンラインクイズの作り方については、マニュアルを作成しておく。デモ用のクイズ例 (付録 1 参照) もいくつか作っておく。</p> <p>① 第 1 回にやること : 課題を説明し、2 週間後にオンラインクイズの形で成果を公開すべきことを宣言し、2 人一組のペアを作らせる。</p> <p>② 教員は、クイズ例をいくつかデモンストレーションするとともに、Kinderweltreise 等の情報検索サイトのリストを配り、簡単な調べ方や HotPotatoes を使ったクイズの作り方をデモする。クイズに関しては、ドイツの地誌に関する簡単な</p>

	<p>問題データを用意し、ひな形の問題を作らせる。その際、教員は、問題と選択肢の登録方法、画像や音声データや URL の貼り付け方、問題ファイルの保存法や HTML ファイルへの書き出し方を説明する</p> <p>③ 第1回～第3回にやること：各グループで、紹介されたサイト等にあるテキストを読んで検討させ、どんな問題を出すか考えさせる。各問題について、10行程度の解説のページを作らせる。出典を明示すれば、引用した独文を貼り付けても良いが、その場合は必ず日本語訳を付けさせる。HTML ファイルは、発表の3日前までに教員に提出させる。教員は、それらをまとめたページをつくる。</p> <p>④ 発表当日：各グループ5～10分で、自分達の作ったクイズを披露し、参加者に回答させる。CALL 教室が使える場合は、簡易集計用サイトにアクセスさせて結果を提示する。一般教室の場合は、あらかじめ4色に色分けし1～4の数字を書いた回答札をクラス人数分用意して配り、皆に札を一斉に上げさせる。</p>
ポイント	<p>1) 内容面では、選択肢として単に様々な数値を出すだけでなく、他の事物との具体的な比較を使ったり、見てくれる人が知らないことや、意外に思っ興味を持つような内容を取り上げたり、文字だけでなく画像を提示しながら質問するなどの方法を教えることで、クイズとして面白そうだと思ってもらえるようなものをどう作るかを考えさせることが重要。</p> <p>2) 同じ1つのテーマを掘り下げていくような出題の仕方とテーマを変えていくような出題の仕方があり、可能なら前者の 방식을指導する。</p> <p>3) クイズの対象を「ドイツまたはヨーロッパ現代史」という固い内容から、ドイツやヨーロッパ一般の雑学情報や地誌情報に拡張し、回答・解説シートの作成の際に要求するドイツ語のレベルを落とせば(=ドイツ語の単語や用語は使うが、原則として日本語での解説を OK とすれば)、「ドイツとヨーロッパに関する自由なトピックを取り上げたプレゼンテーション」として1年生後期の授業でも実施可能。逆に「ドイツ現代事情」等の Landeskunde の授業の一環として行うなら、課題をより掘り下げることができる。</p>



<= Index =>

Deutschland-Quiz

以下の問題を読んで、4つの選択肢の中から正解をクリックしてください。

Show all questions

1 / 1



問題1 Sehen Sie sich mal das Bild an! Das ist ein "Stolperstein". Was könnte das sein?

新出単語 Stolperstein = つまずきの石 das Gedenktäfelchen = 小さな墓碑銘 an ~ erinnern = ~を思い起こさせる die Toten = 死者たち
der Opfer = 犠牲者 verursachen = 引き起こす der Terroranschlag = テロ行為 das (Erd)beben = 地震 verfolgen = 追害する
deportieren = 強制的に移送する ermorden = 殺害する das Schicksal = 運命 ums Leben kommen = 命を落とす

A. ? Der Stolperstein ist ein kleines Gedenktäfelchen, das uns an das Schicksal der Menschen erinnern soll, die in der Zeit des Nationalsozialismus (NS-Zeit) verfolgt, deportiert, ermordet oder in den Tod getrieben wurden.

B. ? Der Stolperstein ist ein kleines Gedenktäfelchen, das uns an die Toten erinnern soll, die im 1. Weltkrieg (1914-1918) ums Leben gekommen sind.

C. ? Der Stolperstein ist ein kleines Gedenktäfelchen, das uns an die Opfer der Terroranschläge vom 11. September 2001 erinnern soll.

D. ? Der Stolperstein ist ein kleines Gedenktäfelchen, das uns an die Opfer der Tsunami-Katastrophe erinnern soll, die vom Sumatra-Andamanen-Beben am 26. Dezember 2004 verursacht wurde.

<= Index =>

プロジェクトシート

Stolperstein は、1992年から始まった美術と歴史をつなぐプロジェクトで、ヨーロッパ中の歩道に小さな記念のプレートで覆われた56,000個の石が敷石の代わり埋め込まれています。その石は通常の公的記念碑とは異なり、殺されたり迫害されたりした人たちが当時実際に住んでいた場所のすぐそばの歩道（公道や私道）に埋められています。ドイツの建物は、戦争や災害等で等で焼けない限りは、平均150年以上は持ちますので、殺されたユダヤ人たちが実際に目の前の建物に住んでいてその窓からこの道を見ていたかも知れないと思うと、大昔の事件の抽象的な犠牲者ではなく、私たちと同じ日常生活を送っていた人たちだったんだというリアルな感情が湧きます。皆さんが、短期留学で行く

Hamburg にも、その他のドイツの町 Dresden や Berlin にも、たくさんの Stolpersteine がありますので探してみてください。

Your score is 100%.

You have completed the exercise.

OK

プロジェクトシート